

平成 29 年度市内遺跡確認調査報告書

大園原遺跡  
松尾城跡VI  
その他市内遺跡

平成 30 年 3 月  
指宿市教育委員会



## 例　　言

1. 本書は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 20 日まで実施した鹿児島県指宿市に所在する大園原遺跡等の確認調査報告書である。

2. 発掘調査は、指宿市教育委員会で実施した。調査は松崎大嗣が主に担当した。

調査組織は以下のとおりである。

発掘調査主体	指宿市教育委員会
発掘調査責任者	指宿市教育委員会
発掘調査担当組織員	指宿市教育委員会
	教育長　　西森　廣幸
	教育部長　　長山　君代
	社会教育課長　　中摩　浩太郎
	主幹兼管理係長　　迫田　優子
	管理担当主幹　　湯口　亮一
	主幹兼社会教育係長　　鶴崎　一郎
	文化担当主幹　　鎌田　洋昭
	主幹文化係長　　上蘭　浩司
	文化係主事　　廣田　さおり
	文化係技師　　西牟田　瑛子
	文化係技師　　松崎　大嗣

整理作業員　　清　秀子、竹下珠代、鎌田真由美、境　由希

3. 本書の編集、図面作成、写真撮影は、西牟田瑛子・鎌田洋昭・松崎大嗣が行った。

4. 調査、及び報告書作成に要した経費のうち、50%は国、3.3%は県からの補助を得た。

5. 図中に用いられている座標値は、国土座標系第II系に準ずる。

6. 遺物観察表、遺物実測図、遺構図の表記凡例は、『橋牟礼川遺跡III』(1992、指宿市教育委員会)と『水迫遺跡I』(2000、指宿市教育委員会)に準ずる。観察表の特殊な表記については下記のとおりである。  
土器の混和材【力：角閃石、セ：石英、ウ：雲母、金：金雲母、白：白色粒、黒：黒色粒、赤：赤色粒】  
土器部位・法量【口：口縁部、口縁部径、肩：肩部、肩部最大径、胴：胴部、胴部最大径、底：底部、底部径】  
調整【内：内面、外：外面、口唇：口唇部、突：突帯部、底：底面、脚内：脚台内面、脚端：脚台接地面】  
色調【内：内面、外：外面、肉：器肉】※遺物のマンセル値は、土色計 SCR-1 を使用し測色した。

7. 発掘調査で得た全ての成果については、指宿市考古博物館時遊館 C O C C O はしむれで保管し、活用する。

## 目 次

### 第1章 大園原遺跡

第1節 遺跡の位置と環境、調査の履歴	1
第2節 確認調査に至る経緯	1
第3節 調査の結果	2

### 第2章 松尾城跡

第1節 松尾城跡の調査	5
-------------	---

### 第3章 その他市内遺跡

第1節 大園原遺跡	12
-----------	----

# 第1章 大園原遺跡

## 第1節 遺跡の位置と環境、調査履歴（第1図）

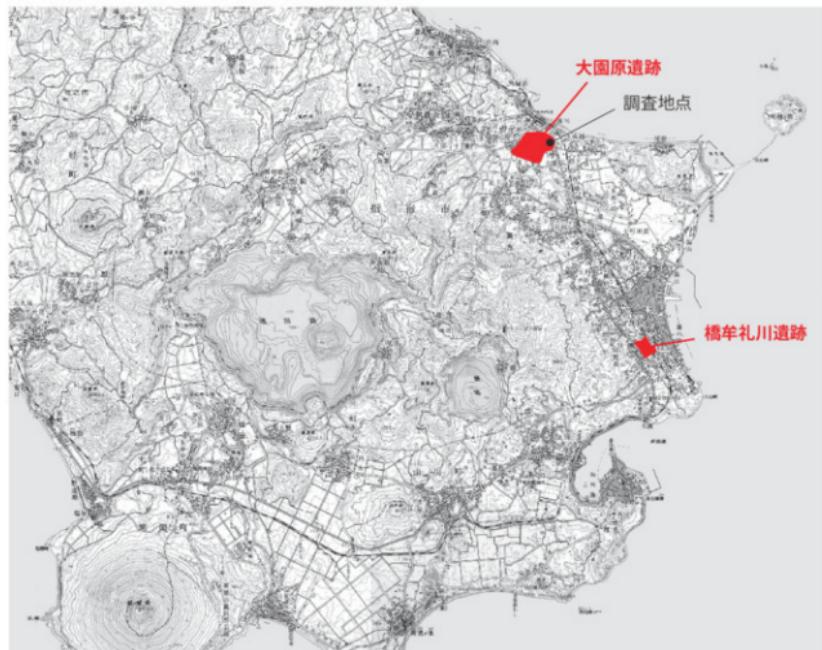
大園原遺跡は、指宿市西方大園原一帯に広がる縄文時代後期、弥生時代後期を主体とする遺跡である。遺跡は海拔 25m 前後の台地上に位置する。平成 4 年、宅地造成に伴い地下げが行われた私有地内から、建物を線刻した縄文時代後期の土器片が発見され一躍知られることとなった。また、平成 21 年、北指宿中学校の体育館新設工事に伴い建設候補地において実施された確認調査では、竪頭と竪間溝と見られる奈良～平安時代の包含層の堆積状況が確認されている。

（文献）

指宿市教育委員会 2010 『敷領遺跡・大園原遺跡・山王遺跡・森山遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 47 集

## 第2節 確認調査に至る経緯

平成 28 年度、周知の埋蔵文化財泡蔵地「大園原遺跡」地内において、国土交通省九州地方整備局鹿児島國土事務所による国道 226 号線大園原交差点改良事業が計画された。それに伴い、指宿市建設部により国道交差点に据付ける市道部分の新設工事が実施されることとなった。平成 29 年度、敷地内の遺跡の有無を確認するために、国道部分については鹿児島県教育文化財課、市道部分については指宿市教育委員会が、事前に確認調査を実施することとした。調査期間は平成 29 年 8 月 10 日の 1 日間である。



第1図 大園原遺跡位置図

### 第3節 調査の結果（第2図・第3図）

敷地内において1箇所のトレーニングを設定し、現地表から150cmの深さまで掘り下げ調査を行ったところ、開聞岳および池田湖に由来する火山性噴出物を確認することができた。確認された層位について述べる。

I層は表土である。II層は黒色土層である。III層は黄コラ火山灰層ブロック混じりで、10~15cm前後の堆積がある。黄コラ火山灰層は開聞岳を起源とし、縄文時代後期、約4,400年前の噴火に伴う降下火山灰層であり（成尾2016）、大隅半島錦江町田代・南大隅町根占でも3~8cmの厚さで堆積しているとされる。IV層は黒色土層である。粘性のない上位の土壤と粘性の強い下位の土壤に細分できる。V層は池田カルデラ火山性噴出物堆積層（約5,700年前の池田湖火山灰層）である。上位の池田カルデラ火山性噴出物混じりの黒色層をVb層として細分した。

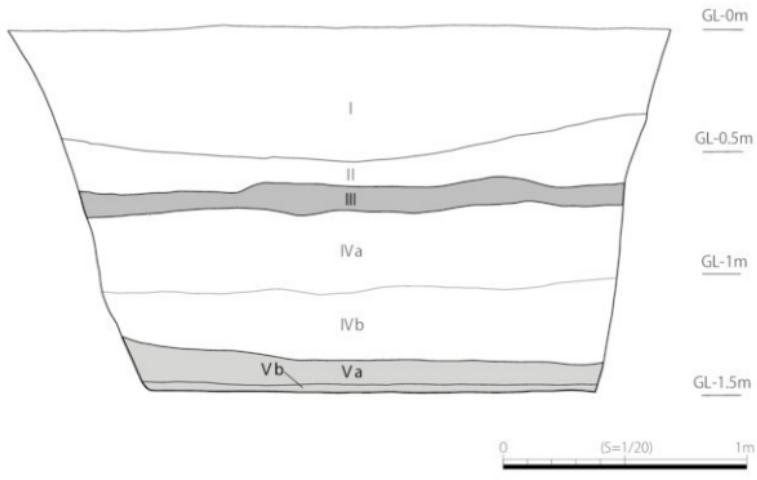
遺構・遺物は確認されなかった。なお、鹿児島県教育庁文化財課が確認調査を実施した国道部分のトレーニングについても同様の層序が確認でき、遺構・遺物は確認されなかった。

#### 【文献】

成尾英仁 2016 「橋牟礼川遺跡における開聞岳噴出物について」『橋牟礼川遺跡総括報告書』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第56集



第2図 大園原遺跡調査区配置図



【層序】

- I 層 表土層
- II 層 黒色層 碓混じり 締まり無し 粘性無し 10YR1.7/1 黒
- III 層 黄コラ火山灰層（縄文時代後期の開聞岳火山灰層）ブロック混じり 10YR7/6 明黄褐
- IVa 層 黒色層 締まり有り 粘性無し 7.5YR2/1 黒
- IVb 層 黒色層 締まり有り 粘性強い 7.5YR2/1 黒
- Va 層 Vb 層混じりの黒色層 締まり有り 粘性やや強い 10YR6/4 にぶい黄橙
- Va 層 池田カルデラ火山性噴出物堆積層（約 5,700 年前の池田湖火山灰層）
- 締まり有り 粘性有り 2.5Y7/6 明黄褐

第3図 大園原遺跡トレチ南壁層位断面図 (S=1/20)

大園原遺跡図版



1 調査地点



2 調査状況



3 トレンチ全景(北東から)



4 トレンチ全景(北西から)



5 南壁土層断面状況(1)



6 南壁土層断面状況(2)

## 第2章 松尾城跡

### 第1節 松尾城跡の調査

平成29年度における松尾城跡の踏査は、本丸推定の曲輪2の南側に位置する曲輪3・8を行った（第4図）。曲輪3と曲輪8は隣接し合う曲輪である。

踏査は三木靖鹿児島国際大学短期大学部名誉教授の現地指導の下、平成30年1月16日・17日に行い、空堀を中心として東西に位置する曲輪3と曲輪8を測量した（第5～7図）。

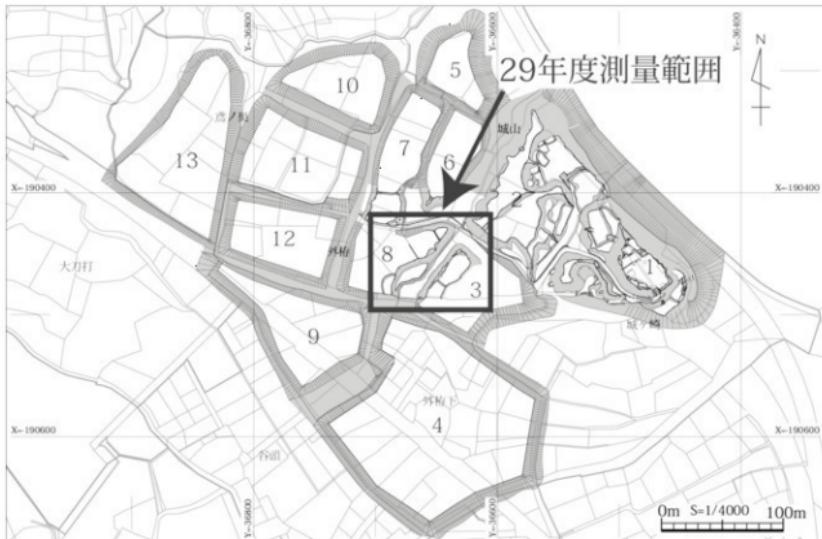
踏査・測量結果の概要は下記のとおりである。

#### 【曲輪3】

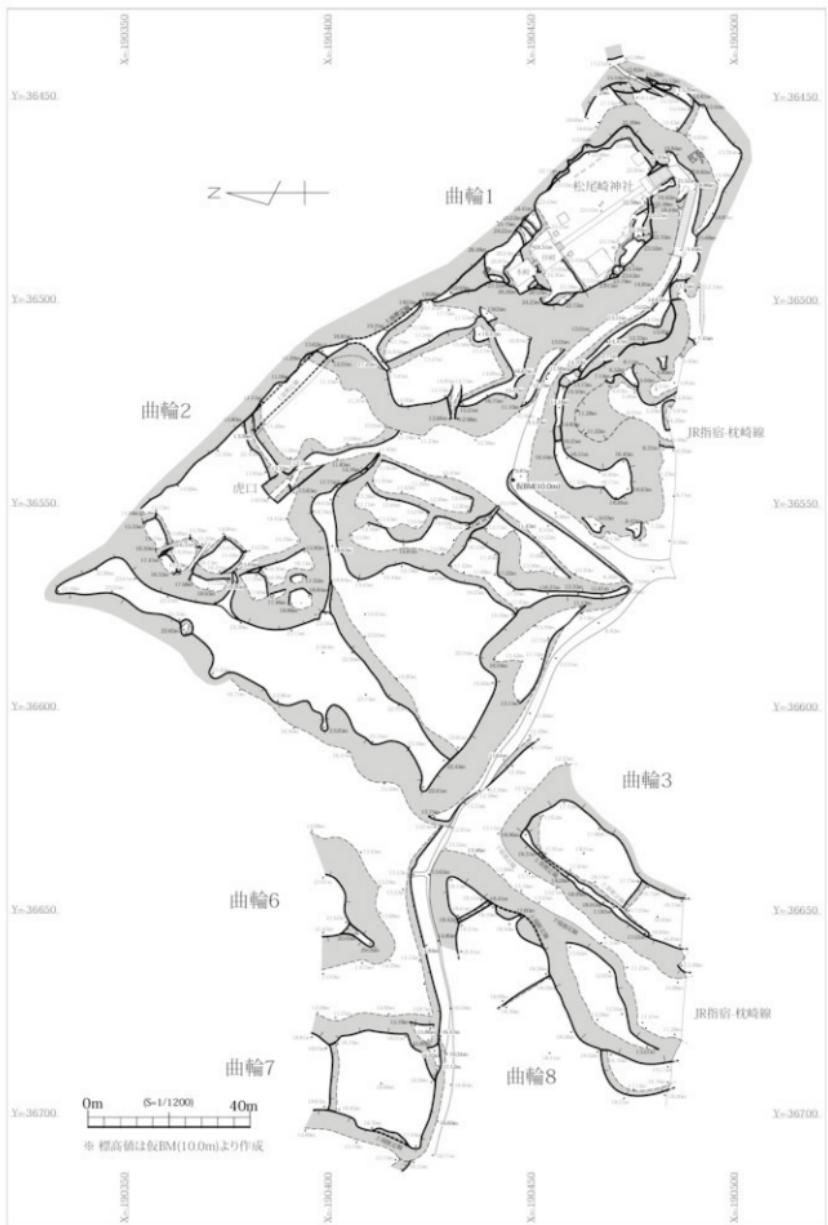
曲輪3は、曲輪2の南西側に位置し、空堀の東側に位置する。曲輪3の南側の一部はJR指宿枕崎線新設に伴い削平を受けている。測量は曲輪3の西側一部のみを行った。この範囲では、北東—南西方向を主軸とする二段の平坦面があり、また、空堀と平行する最大幅約2mの土塁が確認された（第6図）。平坦面と土塁上部との比高差は約33～77cmであり、一部は削平されている。曲輪3と空堀との比高差は約4.66～6.28mを測り、南側に行くにつれて高くなる傾向がある。三木氏によると曲輪3は本丸推定の曲輪2の南側隣接地で重要な曲輪のひとつと位置づけられるとのことであり、曲輪2の西南端と曲輪3北側平坦面とは比高差は約4.6mを測る。

#### 【曲輪8】

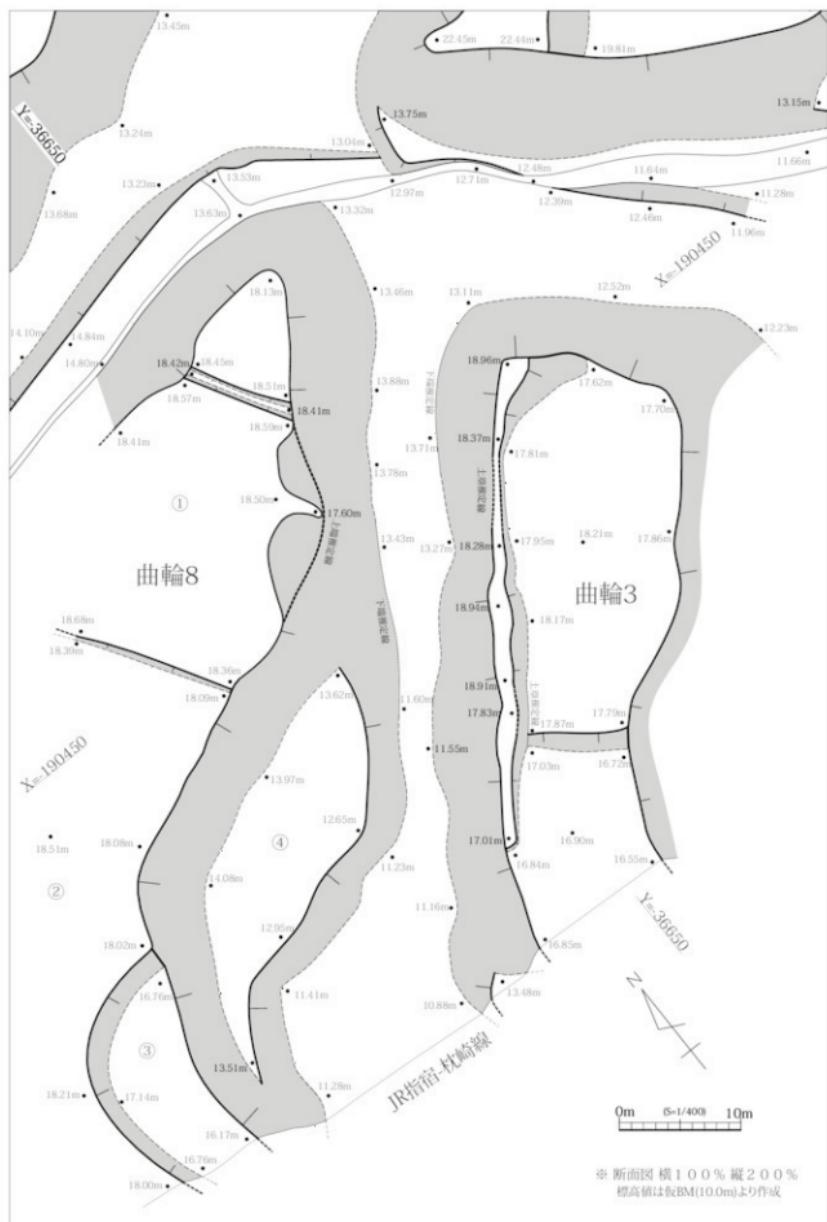
曲輪8は、空堀を挟んで曲輪3の西側に位置する。曲輪3と同様に南側の一部はJR指宿枕崎線新設に伴い削平を受けている。地域住民の聞き取りによると線路の南側にも曲輪8の延長部分の高まりがあったが、住宅造成のため削平されたとのことである。曲輪8は四面の段差のある平坦面（①～④）が確認された（第6図）。内、北側の平坦面①には主軸に対して直交する幅約1.5mの溝が認められた。その機能や用途について今後の調査に委ねたい。平坦面②と空堀の間には高さの異なる平坦面（③・④）が認められた。



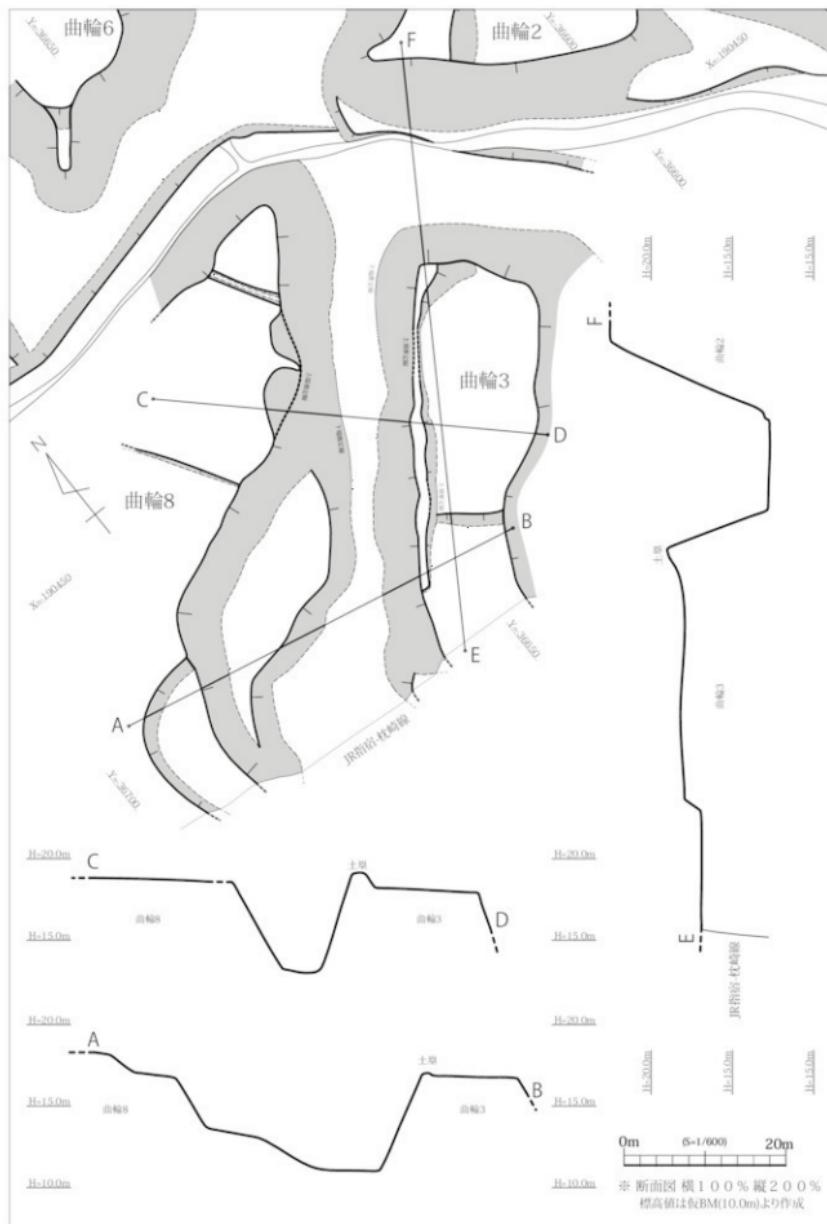
第4図 松尾城跡縦張図 (S=1/4000)



第5図 松尾城跡測量図 (S=1/1200)



### 第6図 曲輪3・曲輪8測量図 (S=1/400)



第7図 曲輪3・曲輪8測量図 (S=1/600)

松尾城跡図版 (1)



1 曲輪 3 平坦面



2 曲輪 3 平坦面と土塁



3 曲輪 3 土塁



4 曲輪 3 西壁①



5 曲輪 3 西壁②



6 曲輪 3 西壁③

松尾城跡図版 (2)



7 曲輪3西壁と空堀



8 空堀と曲輪8東壁



9 曲輪8東側斜面



10 空堀から曲輪3を望む



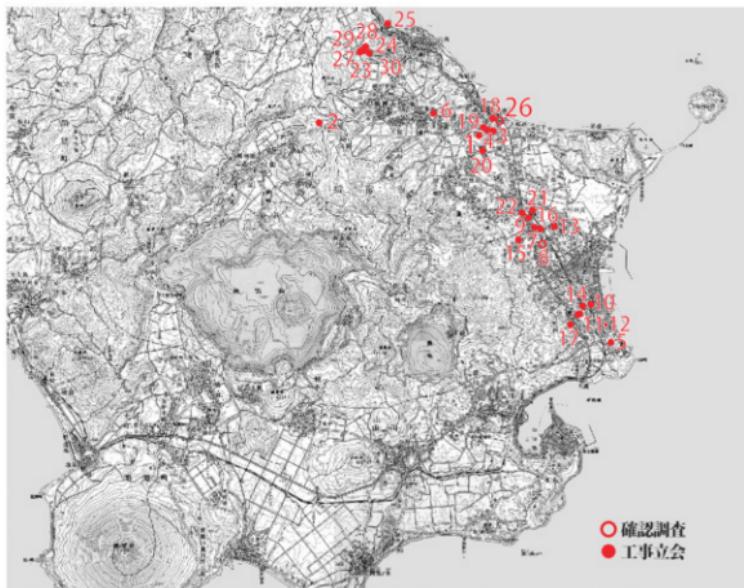
11 曲輪3・8位置



12 三木靖名誉教授による現地指導状況

### 第3章 その他市内遺跡

市内にはおよそ 120 か所の周知の遺跡地がある。平成 30 年 1 月末現在で 19 件の 93 条届出がなされ、1 件について確認調査を、平成 28 年度受付分を含め 18 件について工事立会を実施した。また、13 件の公共事業の計画があつたため、11 件について確認調査および工事立会を実施した。



第8図 平成 29 年度確認調査・工事立会地点

第1表 平成 29 年度確認調査・工事立会対応一覧

No.	遺跡名	所在地	種別	公共	対応	No.	遺跡名	所在地	種別	公共	対応
					平成28年度受付						
1	大園原	西方	住宅		工事立会	16	玉利	十町	住宅		工事立会
					平成29年度受付	17	片野田	十二町丈六	電気		工事立会
2	幸屋	西方	太陽光発電所		工事立会	18	大園原	西方	住宅		工事立会
3	大園原	西方	住宅		工事立会	19	大園原	西方	住宅		工事立会
4	大園原	西方	住宅		工事立会	20	道下	西方	住宅		工事立会
5	牟礼瀬	十二町字牟礼瀬原	住宅		工事立会	21	石矢	十町	エレベーター棟	○	工事立会
6	佐賀原	西方	住宅		工事立会	22	玉利	十町	学校プール	○	工事立会
7	玉利	十町	住宅		工事立会	23	鳥山	新西方	農業バイオライン	○	工事立会
8	敷領	十町	住宅		確認調査	24	岩本	岩本	農業バイオライン	○	工事立会
9	玉利	十町	住宅付店舗		工事立会	25	今和泉島津	岩本	石垣復旧	○	工事立会
10	南丹波	瀬の浜3丁目	住宅		工事立会	26	大園原	西方	市道	○	確認調査
11	播卒札川	十二町	電気		工事立会	27	市後迫	岩本	農業バイオライン	○	工事立会
12	播卒札川	十二町	電気		工事立会	28	鳥山	岩本	農業バイオライン	○	工事立会
13	弥次ヶ瀬	十町	フェンス設置		工事立会	29	切角山	新西方	農業バイオライン	○	工事立会
14	播卒札川	十二町道北	電気		工事立会	30	船迫	新西方	農業バイオライン	○	工事立会
15	上玉利1	東方字下園	住宅		工事立会	31	小牧	小牧	農業排水路	○	工事立会

\*アミカケ(No.1, No.26)は本報告書に掲載した調査を示す。

## 第1節 大園原遺跡

### 【工事立会調査の経緯と概要】

平成 28 年度に届出のあった大園原遺跡地内での個人住宅建設に伴い、平成 29 年 7 月 25 日、浄化槽設置時に工事立会を行った（第 1 表 1）。

当日指宿市教育委員会が施工業者から連絡を受け、現地に到着した時点で、すでに重機による掘削が完了てしまっている状況であった。地層断面の観察からは、地表面から約 170cm の深さで、池田カルデラ火山性噴出物（約 5,700 年前の池田湖火山灰層および火碎流堆積物）の上面が検出されており、その上位には遺物を包含する黒色土層が堆積している状況が確認できた。そこで廃土中から可能な限り遺物を採集したところ、縄文時代後期を中心とする土器片や礫が採集された。今回、採集された遺物のうち土器 22 点を図化し報告するものである。



第9図 大園原遺跡工事立会地点位置図

大國原遺跡工事立会図版



1 調査地点



2 調査区全景



3 調査区東壁 (1)



3 調査区東壁 (2)

## 【採集遺物】

1～22は縄文時代後期に位置づけられる土器である。

1は深鉢形土器（以下「深鉢」とする）の口縁部である。外面口唇部下に四線文を施す。阿高式系土器かと考えられる。

2は深鉢の口縁部である。口唇部はナデ調整により平らに仕上げ、口唇部直下にヘラ状工具による連点文を施す。口縁外には横位の浅い平行沈線文を4条施す。岩崎式系土器かと考えられる。

3～11は指宿式土器に位置づけられる土器である。

3は深鉢の口縁部～頸部である。波状口縁であり、波頂部の口唇部に刻みを施す。口縁部はやや肥厚させる。破片資料であるためモチーフは不明であるが、二平行沈線文による文様を施す。内面はナデ調整およびケズリ、外側はナデ調整である。

4は深鉢の口縁部である。口縁部は外反する形態を呈し、外面には浅い沈線文を施す。

5は深鉢の口縁部である。口唇部上面に豆状の列点文を施す。口縁部外には横位の沈線文を施す。

6・7は深鉢の胴部である。破片資料であるため文様モチーフの全体形は不明であるが、二平行沈線による平行入組文を施すものと考えられる。

8・9は深鉢の胴部である。破片資料であるため文様モチーフの全体形は不明であるが、二平行沈線による曲線文を施すものと考えられる。

10・11は深鉢の胴部である。いずれも外面には沈線文を施し、11は外面に貝殻条痕を施す。

なお、指宿市で出土する指宿式土器の特徴として色調がある。黒川忠広氏は、指宿市の温泉変質粘土を用いたことで桃色等に発色したものを「指宿焼成色」と表現している（黒川 2005）。今回採集された土器のうち、指宿焼成色のものはNo.10の1点であった。

12～17は市来式土器に位置づけられる土器である。

12～15は深鉢の口縁部である。口縁部は断面三角形状に肥厚させる形態を呈し、外形は「く」の字状に屈曲する。

12は口縁端部を丸くおさめる。口縁部文様帯に2条の平行する凹線を施し、その上下に二枚貝の貝殻腹縁部による連続刺突文を施す。

13は口縁部文様帯にS字状の凹線による入組文を施す。

14は口縁部文様帯に斜位の貝殻腹縁部による連続刺突文を施す。調整は、内面はケズリ、外側は貝殻条痕である。

15は口縁部文様帯と頸部に貝殻腹縁もしくはヘラ状工具による爪形連続刺突文を施す。

16・17は頸部である。16は頸部が外反し口縁部に向かって肥厚する。16の外面には平行する横位の凹線文が5条、17には4条確認できる。

なお、市来式土器の胎土の特徴として、混和材に金雲母を含むものが多いことが挙げられるが、今回採集された市来式土器全てが該当した。

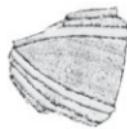
18は無文土器の深鉢形土器の口縁部～胴部である。胴部から口縁部にかけて直立する器形を呈し、口縁端部は丸くおさめ、内面はケズリ調整により段がつく。どの型式に属するものか判断が難しいが、縄文時代後期に位置づけられるものと考えられる。

19～22は深鉢形土器の底部である。19は、調整は内外面とも貝殻条痕のちナデである。網代底である。20は内外面ともナデ調整である。網代底である。21は底部から胴部下半へかけて外へ強く聞く器形を呈し、やや上げ底となる。

【文献】黒川忠弘 2005「指宿式土器の色調から見た交流の断片」『縄文の森から』第3号



第10図 大國原遺跡採集遺物 (1) (S=1/2)



8



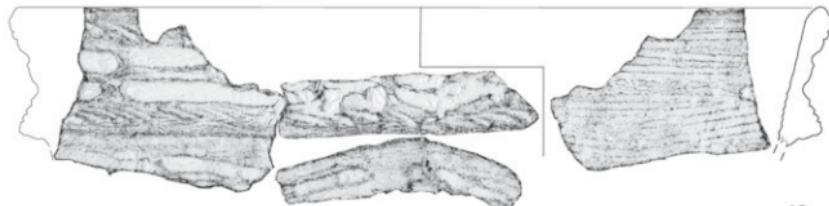
9



10



11



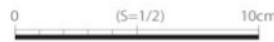
12



13



14



第11図 大岡原遺跡採集遺物(2) (S=1/2)



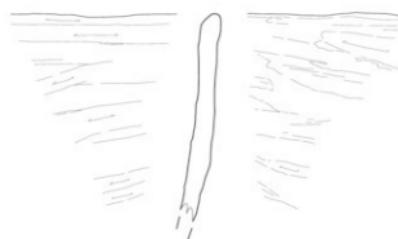
15



16



17



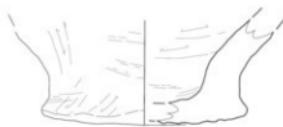
18



第12図 大國原遺跡採集遺物(3) (S=1/2)



19



20



21



22



第13図 大國原遺跡採集遺物 (4) (S=1/2)

第2表 大岡原遺跡採集遺物観察表(1)

図番	残存高量	器種	部位	色外	色内	色肉	胎土粒	混和剤	調整	備考
1	残存高: 3.2cm	深鉢形土器	口縁部	7SYR6/3	10YR6/2	7SYR6/2	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・黒	内・ナデ(模) 外・ナデ(模) 口唇・ナデ	良好
2	残存高: 4.3cm	深鉢形土器	口縁部	SYR5/2	7SYR5/1	7SYR5/1	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・白	内・ナデ(模・斜) 外・ナデ(模) 口唇・ナデ	良好
3	残存高: 8.1cm	深鉢形土器	口縁～胴部	7SYR5/1	10R5/2	10R5/2	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・白	内・ナデ・ケズリ 外・ナデ(斜) 口唇・ナデ	良好
4	残存高: 3.7cm	深鉢形土器	口縁部	SYR5/1	7SYR5/1	SYR5/1	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・黒・白	内・ナデ(模)・ケズリ 外・ナデ(模) 口唇・ナデ	良好
5	残存高: 3.6cm	深鉢形土器	口縁部	2SYR5/1	SYR5/1	SYR5/1	レキを微量含む 小レキを微量含む	セ・白	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ナデ	良好
6	残存高: 4.7cm	深鉢形土器	胴部	10R5/2	7SYR5/2	2.5YR5/3	砂粒を微量含む	カ・セ・白・褐	内・ナデ・ケズリ 外・ナデ	良好
7	残存高: 3.2cm	深鉢形土器	胴部	2.5YR5/2	7SYR5/1	7SYR5/1	砂粒を少量含む	セ・白・褐	内・粗いナデ(模・斜) 外・粗いナデ(模・斜)	良好
8	残存高: 4.5cm	深鉢形土器	胴部	7SYR5/2	2.5YR5/3	2.5YR5/2	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・白・褐	内・粗いナデ 外・粗いナデ	良好
9	残存高: 4.3cm	深鉢形土器	底～胴部	10R5/1	SYR5/1	2.5YR5/2	砂粒を少量含む	カ・セ・白・褐	内・ナデ・ケズリ 外・ナデ・ケズリ	良好
10	残存高: 3.6cm	深鉢形土器	胴部	10R6/3	SYR5/2	10R6/3 SYR5/2	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・白	内・ナデ 外・ナデ	良好
11	残存高: 4.0cm	深鉢形土器	胴部	SYR5/2	10YR5/1	2.5YR6/6 2.5YR7/2	砂粒を微量含む 小レキを微量含む	カ・セ・白・褐	内・ナデ・ケズリ 外・貝殻条痕	良好
12	口径: 33.0cm (推定復元)	深鉢形土器	口縁部	2SYR4/1	SYR5/2	2.5YR5/2	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	カ・セ・白・褐 ・金ウンモ	内・貝殻条痕 外・貝殻条痕のちナデ 口縁端部・ナデ	良好
13	残存高: 4.4cm	深鉢形土器	口縁部	2.5YR5/1	10R4/1	2.5YR6/6 10R4/1	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	カ・セ・白・褐 ・金ウンモ	内・粗いナデ 外・粗いナデ	良好
14	残存高: 4.4cm	深鉢形土器	口縁部	SYR5/1	SYR5/3	SYR6/2	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	セ・白・褐 ・金ウンモ	内・ケズリ 外・貝殻条痕	良好
15	残存高: 4.6cm	深鉢形土器	口縁～胴部	SYR5/2	SYR5/2	2.5YR6/3	砂粒を含む 小レキを含む	カ・セ・白・褐 ・金ウンモ	内・貝殻条痕 外・貝殻条のちナデ	良好

第3表 大岡原遺跡採集遺物観察表(2)

番号	残存量	器種	部位	色外	色内	色肉	胎土粒	混和剤	調整	状況
16	残存高: 4.7cm	深鉢形土器	腹部	SYRS/1	2SYRS/2	SYRS/2	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	セ・白・褐 ・金ウンモ	内: 貝殻条痕 外: ナデ	良好
17	残存高: 3.7cm	深鉢形土器	腹部	SYRS/1	SYRS/2	7SYRS/2	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	セ・白・褐 ・金ウンモ	内: 貝殻条痕 外: ナデ	良好
18	残存高: 8.5cm	深鉢形土器	口縁～頸部	10RS/2	SYRS/1	SYRS/1	レキを少量含む	カ・セ・白・褐	内: ナデ(横・斜) 外: 三ガキ様ナデ(横・斜)	良好
19	底径: 9.4cm (反転復元)	深鉢形土器	底部	2SYRS/2	SYRS/1	2SYRS/2	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	カ・セ・白・褐	内: 貝殻条痕・粗いナ デ 外: 貝殻条のちナデ	良好
20	底径: 8.4cm (反転復元)	深鉢形土器	底部	10RS/2	2SYRS/2	SYRS/1 2SYR4/1	砂粒を少量含む レキを含む	カ・セ・白・褐	内: ナデ 外: ナデ	良好
21	底径: 12.0cm (反転復元)	深鉢形土器	底部	10YRS/1	SYRS/1	7SYRS/2	砂粒レキを少量含む	カ・セ・白	内: ナデ 外: 三ガキ様ナデ?	良好
22	残存高: 4.0cm	深鉢形土器	底部	SYRS/2	SYRS/1	7SYRS/2	砂粒を多く含む 小レキを多く含む	カ・セ・白・褐	ナデ?	良好

図版 大國原遺跡工事立会遺物写真



報告書抄録

ふりがな	へいせい29ねんどしないいせきかくにんちょうさほうこくしょ（おおぞんばるいせき・まつおじょうあとVI・そのたしないいせき）
書名	平成29年度市内遺跡確認調査報告書（大岡原遺跡・松尾城跡VI・その他市内遺跡）
副書名	-
巻次	-
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第61集
編著者名	西岡田 球子 篠田 洋昭 松崎 大樹
編集機関	鹿児島県指宿市教育委員会（指宿市考古博物館 時遊館 C O C O はしむれ）
所在地	〒891-4043 鹿児島県指宿市十二町2290 TEL:0993-23-5100
発行年月日	平成30年3月

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大岡原遺跡	指宿市西方大当大岡原 健		6-44			2017.8.10	3m <sup>2</sup>	公共事業
松尾城跡	指宿市西方字城ヶ崎		6-25			2015.2. ~	3,250m <sup>2</sup>	市内確認調査 (国庫・県費補助事業)
市内遺跡 (大岡原遺跡)	指宿市西方大当大岡原 健		6-44			2017.7.25		民間開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大岡原遺跡	集落遺跡	縄文、古墳、奈良、平安	-	-	
松尾城跡	山城	中世	曲輪、空堀、腰曲輪、土塁	-	一部は市指定文化財
市内遺跡 (大岡原遺跡)	集落遺跡	縄文、古墳、奈良、平安	-	國文土器、衛宿式土器、市来式土器	

---

---

平成 29 年度市内遺跡発掘調査報告書

## 大園原遺跡・松尾城跡VI・その他市内遺跡

平成 30 年 3 月

発行

指宿市教育委員会

鹿児島県指宿市十二町 2290

印刷所

渕上印刷株式会社

鹿児島県鹿児島市南栄 3-1-6

---

---

